

浜松学院大学 短期大学部 幼児教育科 準教授
志村先生からの子育てアドバイス

これまで数々のご家族やお子さんの相談を受けていて感じたこと…それは、「子どもは『大人や親の言っていることを学ぶ』のではなく、『していることを真似る』」ということです。いくら素晴らしい話ができる立派なことを言っていても、その実、大人のやっている姿を無意識にくりかえして成長していくのが子どもです。

だとすれば、私たちが子どもにできることは何か?

ひとつは「大人や親自身が、充実した毎日を送り『自分はOK』な姿を見せること」です。その姿を見せてあげることが、子どもの“自己肯定感”や“ここに居て良い自分”的基礎になります。

もうひとつは「大人や親が、自分の周りにいる人たちに思いやりと親切さをもって関わり合うこと」です。これを通して、自分と同じように他者を大切にする社会性の前提を培うことになります。

子育てのポイント

「楽しく子育て」とか「育児を楽しみましょう」という言葉が流行のように言われていますが、未成熟でこれらの存在を24時間・365日育てるのは、実はしんどい作業でもあります。「楽しめない私=大人や親失格」ではありません! しんどくても大変でも、毎日「やり通していること」こそ素晴らしいのです。だからこそ、ひとりで抱え込むのではなく、みんなで支え合って「自己肯定感と社会性」を身に付けた人間育てを…と思います。

ひとりで悩まないで相談しましょう

子どもの育ちや発達、子育てやしつけについて相談・アドバイスを行っています。秘密は固く守りますので、お気軽にご相談ください。

子どもの育ち相談

火曜日、第1・2水曜日、第3・4金曜日

13:00~17:00



児童虐待相談

月～金曜日

8:30～17:15

子ども未来課 子ども支援グループ

☎ 83-2425 ☎ 83-3715

(羽若町 545 「あいあい」内)

いじめ、体罰等の教育相談

月～金曜日

9:00～17:15

学校教育課 教育研究グループ

☎ 84-5077

(本丸町 577 市役所西庁舎2階)

不登校相談

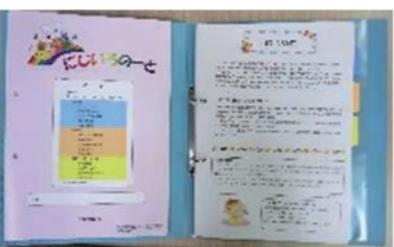
月～金曜日

9:00～17:15

ふれあい教室

☎ 82-6000

(若山町 7-10 青少年研修センター内)



「にじいろの一と」をご活用ください

「にじいろの一と」とは、発達支援の必要なお子さんが、切れ目のない支援を受けられるように、園や学校、サービス事業所などの各機関で、スムーズに情報を引き継ぐためのサポートブックです。「にじいろの一と」を活用し、お子さんの情報を関係者間で共有することで、お子さんや保護者へのより良い支援につながります。

0歳から大切な「子育てのポイント」をまとめました。家庭・地域・幼稚園・保育所・認定こども園・小学校・中学校など子育てに携わるものが、子どもたちの健やかな成長を願う思いを共有しながら、ともに子育てができればと考えています。子育てに悩んだ時や子どもの成長について考える時に、このリーフレットを参考にしていただければ幸いです。

2019年 7月

すべての子どもたちが、希望に輝き心豊かに自分の人生を歩めることを願つて

発達段階に合わせて

みんなで支え合う子育て アドバイス

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
讃めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

(『子どもが育つ魔法の言葉』ドロシー・ロー・ノルト、レイチャル・ハリス著 石井千春訳 PHP研究所)



みんなで 子育てしよう！

基本的信頼感を育もう！

乳児期(0歳～)

親や周りの人から世話をしてくれるながら、**基本的信頼感**（ありのままを受け入れてくれる）と感じる「他人への信頼感」と、自分を価値のある人間だと思える「自分への信頼感」を育んでいく時期です。

だっこ、うれしいな

だっこ、気持ちがいいな。



赤ちゃんは、一人で生きていくことができません。泣くことで自分の思いを表します。親や周りの人がその思いを受けとめ、抱っこしたり、授乳したり、おむつを替えたり、世話することで愛着（赤ちゃんと養育者との心のつながり）が形成され、基本的信頼感が育まれます。

ワンポイントアドバイス



たくさんスキンシップ

赤ちゃんの体に触れることによって、赤ちゃんは「自分が大切にされている」と感じ、自己肯定感（自分には価値があるんだと思う気持ち）が育まれます。おむつ替えやお風呂の時に、おなかに触れたり、マッサージをしたりしてみましょう。また、赤ちゃんの目を見て笑顔でたくさん話しかけることも大切です。

しつけの中で自律性を育もう！

幼児期前期(1歳～)

“トイレットトレーニングを始め”や“「いただきます」と言ってご飯を食べる”等のしつけを通して、**自律性**（自分をコントロールすること）を学んでいく時期です。

じぶんとじぶん

「自分でやりたい」という気持ちが強くなってきます。しかし、やってみるけれど思ったようにうまくできず、失敗することもあります。うまくできたら褒められ、失敗したら恥ずかしがるということをくり返しながら、自律性を身につけていきます。



ワンポイントアドバイス

優しく、くりかえし

うまくできないからと頭ごなしに叱るのではなく、優しく、できるまでくり返し教えましょう。また、失敗をさせないように先回りせず、子どもにまかせてみましょう。そして、できた時には大いに褒めましょう。時には「やりたい」気持ちが強すぎて、自分の気持ちを押し通そうとすることがあります、気持ちを受けとめ、見守ることも大切です。

遊びを通して積極性を育もう！

幼児期後期(3歳～)

保育所や幼稚園等で集団生活を送りながら、自分で考えて行動するようになり、**積極性**（何事にもチャレンジしていく気持ち）が高まる時期です。

何でもチャレンジ

さまざまなものに興味を持ち、動きも活発になってきます。また、周りの子たちとルールをつくって遊んだり、ごっこ遊びをしたりするようになります。



失敗することもありますが、いろいろなことに挑戦し、成功体験を積み重ねることで積極性を身につけていきます。



ワンポイントアドバイス

比べず、見守る

失敗を叱ったり、他の子と比べたりすると周りの目を気にして、自発的に行動できなくなります。子どもの「やってみたい」という気持ちを尊重し、挑戦している姿を見守りましょう。しかし、どんなことでも受け入れのではなく、社会のルールやマナー等が守れなかった時は、理由を示し、してはいけないことをはっきり伝えることも大切です。

集団の中で勤勉性を育もう！

児童期(6歳～)

家庭から学校・地域へと世界が広がり、人との関わりが増えていきます。同年代の人と関わりながら、**勤勉性**（コツコツ努力して目的を達成する力）を身につけていく時期です。

友だちと学ぶって楽しいね

小学校へ入学し、友だちと話し合ったり、教え合ったり、協力したりする経験を通して、自分の得意なことや苦手なことを理解し、努力や工夫によって自分の目標を達成しようとします。しかし、努力しても結果が出ず、悔しい思いをしたり、自信を無くしたりすることもあります。そんな時に、周りからの励ましや言葉がけによって、勤勉に努力する基礎が培われます。



ワンポイントアドバイス

友だちとのつながりを大切に

友だちと関わりつながることで、多くのことを学びます。友だちと関わる機会を大切にしましょう。その中で、人と関わり合う喜びや楽しさを感じる一方、努力してもうまくいかないと感じる時もあります。そのような時は、さりげなく声をかけ、努力している過程を認め、自信をつけさせることも大切です。

自分を客観的に見る目を育もう！

青年期(12歳～)

思春期ともいえるこの時期は、「自分がやりたいことは何なのか」「将来どうやって生きていこう」と思い悩みながらアイデンティティ（自分らしさ）を確立する時期です。

自分らしさって



家庭、学校、部活動等さまざまな集団の中で生活することで、他人と自分を比較したり、周りからの評価を気にしたりすることが増えてきます。また、理想とする人の言動や考え方を真似したり、自分の弱さに気づいたりしながら、自分らしさや個性を見い出しています。

将来、どんな職業に就こうかな？



ワンポイントアドバイス

気持ちを受けとめて

子どもの気持ちを受けとめ、成長を見守りましょう。もし、親の思いと違うことをしたとしても、家族の思いや考えをはっきり示し、子どもに対する信頼感を伝えることが大切です。また、親以外の大人的に、子どもが“こんな大人になりたい”と思えるモデルを見つけられる機会を作ることも大切です。